

義士隠栖 山元春挙 一幅

紙本墨画
大正十年（一九二一）
本紙一六五・七×九一・三



本図は、大正十一年（一九三二）に行われたパリ日仏交換展に出品され、続けて同年の第四回帝國美術院展覧会に出品された後、皇太子（昭和天皇）の買上品となった作品である。「雪松図屏風」三井文庫蔵のように、積雪の表現に主眼を置いた作品は応挙が得意としたものであり、春挙もそれに習いながら、雪景の作品を好んで何点も描いた。本図は降りしきる雪を表現するために、胡粉を含ませた筆を画面上で叩いて細かな飛沫を無数に散らし、さらにその下地の薄墨にも斑点状の色むらを作り、重層

的な雪の表現を編み出している。

題名の通り、本図は忠臣蔵の山科閑居をモチーフにしている。ただし特定の人物の姿などは認められず、激しい風にしなる木々と激しく降り積もる雪、そしてその雪に蔽われた粗末な小屋だけが描かれている。人里離れた山奥に身を隠す赤穂浪士の厳しさを、鑑賞者感じさせるのが春挙の意図したところだろう。このモノクロームの静謐な世界には、鮮やかな彩色を自在に操るのとは違う春挙の別の一面がうかがえる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 — 円山派の伝統と発展

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections